

新虚栗集

改正

梅の花天晴春をまてりし

嵐鶴公

酒帯かき行餅を山路たづん

華登

春啗

芭蕉翁

勢とあらし氷消てハ滝津魚

此句今更の撰ぶるに
但おとよと告る

大豆焼く二月の天気下女侍士

花翁

松立く偽りの今朝と成なりん
 卓五
 人々男たり春を只居る男たり
 女成
 秋迦やを弥陀もきくいづも
 農布
 一丈花よおをひ斯るも飛鳥凡
 物赤
 孫地走や自ら老婦をの鴉
 杜呂
 多門出我の松より産きり
 湖東
 今朝春の海邊齒染焚き
 元吉
 素仁
 多川音皆心小對小是春り
 洛
 麥水
 梅咲ぬれや檢校と花いさき世は
 道立

人日

妹るも乃河邊出直も若菜掛
 暮柳舎
 希回
 蝶くやたれもをり立日れわらん
 千代尼
 素園
 餅あつる青公家原の節會掛
 丙穴
 本草芽立已何せん春の色
 其葉
 木盤曲をを夕山の花吞そ
 狹穴
 素椿
 花や世人此あつるを此小迷ひん
 素連
 花や問を春柴小月を負し尉
 平業

偶興

水臙 魚のや 魚乃 口避ん
 大船 中 花散ル 世をを 知らカ
 山 焼ッ 夜 生憎や 月の 照リ 凄キ
 蜆 舟事 の やすき 知ら ころも
 草 此 芽や 一寸の 我 翌日^{アス}を 知ル
 生死 了ん 人間 知ら ぬ 山の 山
 花 重し 三ツ 輪 ころころ 人 いる 尔
 花 小 飢 了 凡 詩^{カラシタ}も 斐 枕
 南村 我稿 十艸 有貞 蝶化 混夫^女 清嵐 梅三

煙景

目 渡 暮 山 小松 山 よも 霞 雲 和
 嶺 乃 梅 袖 ぢ ぼろ 日 や 過 人 梢 波
 塚 あり ころ たり ころ 田 を 返 ころ 食 人
 狩 ころ ころ 花 を 臙 乃 街 ころ 遅 兔
 人 常 あり 海棠 我 を 侵 ころ 魚 發
 宜 なる こと 旬^{カドウ}引 ころ 花 の 夕 毎^{コト} 立 菊
 月 あり なる 夜 あり なる
 梅 香 此 誰 ヲ や 予 寐^{イナ} 吹 け 湖 山

夕トシの花の迅トシちるぬ
 日と斜レ日とレさぬコ人をせむレ此
 鳥の音は人待ツ日は霞
 かけろのあられ我も寸急の代や
 春は雨あぶかけろの野は過る
 つき後は乃夕日は我も頼らん
 夕は日をいとゆふの移り舞一
 徒と枝の花は厭らん花の日よ
 焚捨る時はの一むむ花の咲る
 暫女喜
 惠女舞
 歌凡
 雨橋
 梨黄
 久遊
 一水
 里笑
 六童

初雛れ古いしとのをむむひるを
 浮ろふ鱒水をももを方便しが
 人口をしくくとく散らわ
 梅咲日は禡弓真を人をむむ
 朧月君も志る波はるる岡
 世を忍ぶ幸の日は野芥賣賣
 世も心はとと也規取取
 花のけしや穴住蟬の花最中
 花も春の一室の五人晋ノ七
 東以
 左貞
 眉鼓
 里布
 社藤
 禹井
 湮町
 花尺
 魚静

花下ノ詠

越後僧

漁曰

舟を焼く花不後を誰又きふ
 已レ花此尺蠖シヤトリミよ 夙ツト夜ヨを
 花美人 田樂此刑不咲エるうも
 生憎布麴車キレ 輾ラス花の中
 花雲雨蝶王夢やむまいてん
 我意イ花宿世スクセ由何を犯してか
 常あらしを誰欲ホリもてふ花タリ
 うき世宜花寸陰をこ覽ミる

頭日々 飛花異の雪を積やら
 又だそい 落花の烟 茶旗の凡

春初

促ウツカさん三日此酒不梅乃 月大聖寺 八水
 餅喰らふ詩人鈍しや神の春洛 凡董
 露とつゆ方し玉の緒よ今朝の春別宮 宙存
 寺を既ふ花一輪此府中 之丸
 燕啼て夜蛇を京 小家葦村

苗代の澄ぬを女とて安らふは

水門 和伎

青柳小智恵得く世と我安らふは

水嶋 川芦

翌日此若菜手寄乃門田雁追ふ

本吉 梅視

童女やとと菜流しを小帖なれ

龜隠

花をれて鬼畜尔面をぬせん

左京

夢さうしうや人知山さう

水嶋 歌汀

世小豆の物とれし花の夕部は

柏野 麥司

高ク踏く柳をれ日此仰あらん

河巢

磯馴松風賢くなる春むは

麥風

近江路やさうく見小乗ル酒錢舟

松任 宜包

春は月上野は廊下つらひは

白鳥

鶴鳴や故人の衣妻を慰ふ

去水

白根川の裾の泡くを小帖なん

ツルキ 呂尹

わく吹夜明れきくを色を

野市 宇洪

耶須原といふ所なり

花の雨青羶 雨衣小飯ルは

言腰 琴市

風吹くよき花守し洞小居む

大野 百夫

春の野はさうき花を無為の初櫻

浦京

我をもよほそ人のかきらやまら花州 少松 挑方

春小鳥 巢ふをけりてやさそふ原 三九

此朧花ふ父の 姿 魚 笥

家世是菜の花盛り物 祐 之

梅、瘦テ而秀石、醜而文

花寂ッ 坐ハ麗居士ウ腸小似シ 御山 姿仙

虎画ヲ不就還テ 糞ス狗

僕拙ク花ふこき 魚 好

飛晚花老女ウ 胃やま 勅使僧 如雲

後園

去れ者よ 編笠 山中僧 蘇月

とろく 咲ク世小腹き 大聖寺 不尤

裏道下花ふほ 甘 谷

日和峠 水 友巴

虫不圓 加 水

木曾小馴 趙 人

水緑 東 岸

春菜下 渦潜 魚の光 野 水

百花鳥 翁やむとくし 岩流川 吳天

花小酔く鄙なく巖の山鴉 史雄

心よけし鳥 臍を啼ししよる 何山

まゝもむ 老骸 春ふち衣 紫狐

光陰何ものぞ

三千と幾ふなほそふ 桃の昨日の 駒堯

あゝ言えぬ花を悲し 妹狩夜 燕市

幽棲や天晴 白き 春は月 北虹

去りし佛老人 年をとりぬ 涙 谷阿

原の水蛙鳴とせし むふの風 白良

辜負春色

花を寐を治世の糧を侵もせし 八何

於落花踏とく人下道はとせ 枕水

了となせ花の非人せ笑ふくふ 柴扉

老よ掘レ聲老小川の富得しふ 其夕

つを孔摘鞍馬の兒の姓向ん 遊輪

独活折し 甲斐をさあなれ櫻調 芦敷

予綾を重ぬき言し 志を取 柳翠

欄干の一望

望みよわき

僧

歸ル雁むへ心ぎし我ふ似し 蘭慮

千鱗く月あけぬ日ハ花何のこ 二夕

吃蝶の俣らんぢけふあし吹 路扇

世や花の色ハ色く我知ら免 市川

鶯匂へり我よき人ふ交りたき 其造

葩と啄去ル刀のくろもを母し 楚江

昏の夜とも山北山邊ふ寐くまき 二笑

さきふしや枕ふたふ春乃月 一鴻

日北と水や親仁酒のむ桃北下 曲々春

権現の赤松原下若みくろく 岷水

行あさる弱き夜の吐 流光

花小きやそふくもけし旅の宿ハ やほ

舟の女ふそを問ふ

磯菜摘奈胡のてこれれうろ若キ 舅路

身やうろ商人多し跡ル花 蓬卧

鷹を忍て野多昏寐るあすの色 越鴻

櫻焼く山北招うまふ客三人 霞亭

見ルヤ此一夜當千の春此戀 九々
 我鬚乃春を黒くよ杉をく 為鈍
 古戦歎歎目花樓小衣着 蒼梧
 酒債乞顔訊小ぬあり野山吹 以文
 ささく尽く汝の帰ら我なさく 野曰
 野や寒く苗代菜蔓の新なる 求古
 花のやさくつなや誰よくとへく 東門

春宮怨

花さくく燃えて雨夜の夢長 趙丈

題詠八句春宮怨

浪華連

守宮血狂あり人來とハ鳥のそろろ 木蘭
 花乱散ツく塵欄ホくハ女をい 生佛
 梨花雨惨々鏡裏むけく春老人 亀友
 紅閨剪灯徒梅の香をと抱き卧ス 魯文
 緑哀レ宮中花小和をあらん 五帛
 帳洩れく花妬キ面四十也 山父
 桃李不言待夜明行玉もく執 百冰
 琴を抛ツく脆夜鴉我小迫ふ 志慶

題詠二章春山

伐木下々々々嗟心せよ山昏也
花を推ル僧却々酒を禁もる也
守大 二柳

全五句 覽古

して其瓦買はん飛鳥の墅先掘
人ソつこ空〜志賀のさ〜
漁夫の尚へハ風鎖も須廣の関
礎霜成セリ猿小世々の荒尚はん
俤蟹小残ル凡小偃も芦乃花
百洲
魯文 弄哦 有鳳

融意

金珠

田螺と〜 簀の脰ヒナや安か〜也 寒川
かこ曇れ春雨多れ浦傍ナそ 汝爰
松青し 志賀の三月 荒麻ん 如芳
帳深し 暮や雉子の色小舞 一阜
梅白 水すじ池を〜る〜れ 松華
蜺舟ワラハカボク 娟カボク 蘭江
春雨穿チ 壁此〜 徒小世の情コハコ 吾角
妻の墅や宮女捨身の世〜持チ 一俵

あらしし乃虫なほん蜂の蜜作（滑川）世卿

春三月ふゆの蛙の何得てん全良明

漸なる消えん有る何なる雪二月全樂水

蛙聞て殆下丸寐せし夜これ魚津蘭夫

うき虫かゝあそび蛙只鳴あそび長坂琴市

何えろや中脊中れ乾こん蛙長坂寄取

蝶むろろ虚家カライヘほろと立舞中内之丸

谷の田や若苗衣おろし形中内後彫

ま切つる菜種の中へいそら中内柳卜

茶店穢塵ケカレ山吹いほる水吞ん蘭杜

清キリりや白魚浮かハぬ川芦

閑庭

まハ庭覚花小鬼女イ子う世元吉浦連素仁

朧夜小なきやイ子寐て志斜獨

雨ウツりると海雲老女オイッの色澄夏静

雁トビ志し誰江上の表明歌汀

藤モトの下小賤や夕部乃齡知杜得

白魚乃憂たたりを無乃夜果果宜訪

早アカタワ〜と雨アカタ賣ウる色清シロ

三谷改

芝水

斐ヒなるヒこ小街コエ春風ハルカゼ去ク聞ク小

白虎洞

芦仙

他マモアラハレ マモアラハレ マモアラハレ きのきキ小花コハナの肘ヒジ白シロ

晚鐘軒

蓬渚

話中乃

奥を述小

素仁

月西ツキも海ウミおほホる日ヒ下シタ遠トホし

曹トモ兵ヘを乗ノも薊アヲ北キタノ櫻オウ

空訪

帰キ去ク来キ雁オモロ徐オモロの色イロだダとトて

芝青

華ホカラケ朗ホカラケ起ホカラケ 薄ホソ様サマを執トル

歌江

壺ヒラをヲ推オシぬ夏山ナツヤマ主ヌシのノやヤし琴コト

和伎

屯ヒサシ空カラ〜白砂ヒサシ岸キをヲ蔭カゲ

夏静

日ヒや斜カサ乾カサ神カミのノ名ナ残ノコる忘ワシ水ミヅ

素宕

奥ウラ北キタ萍ヒラよ乳チリを流ナ姓セイ

芦仙

文フミ悪アク〜綾アヤのノおオろロと思オモひ

芝水

雪ユキ小コ乱ラン〜あアるルおオほホをヲ〜

古角

関セキ寒サムイ〜辛カサ死シ骸カガシや誓チカめメ免マフ

逸山

〜瀧タリ津ツ雄ヲ此ココ〜かカ〜とト經ツル

價石

〜ら啼ナ月ツキよ仰オモむ風カゼ白シロ

馬勃

黎民シとて砧シ五斗越スアチ甘アチ子アチ訪

夢化一秋玉簾のそをくしの乳カサ菊カサ呂

さし七波濤よ何カサ鬱カサく鳴カサ蓬カサ渚

就中シ一向花此シ陰シりやをシ訪

飄ヒサ寂さ小翠ヒサなりし弾ヒサ仁

春やししも衣脱しヒサ東ヒサ了ヒサ汀

雨の旅行と叩く橋立ヒサ青

風ホクシ狂るハ千々小名を乞捨堅郎ホクシ敬

情世上の羽車ホクシを押スホクシ宕

換ふく新羅シラキ訪日トスのそをくシラキ水シラキ静

價燈のくつシラキくシラキくシラキ官シラキ水

あれをく袖小衛のそれシラキ飯シラキりシラキ仙

浦や連鏡照ルシラキ幣シラキ山

よシラキや只無為小天シラキのシラキ帯シラキせんシラキ石

木槿を黒く偽や咲シラキ勃

鯉漬深山へくシラキのシラキ無事シラキ是シラキ角

有明小吹脛を悲歎シラキ伶

柯シラキを採る古葉柏降るシラキ以シラキてシラキやシラキ小シラキ仁

彼^{タラキヲ}生親男の君命^{カミツリ}を攀^{アツ}
 木^{ユラタスキ}綿^キ襟^キ曉不^キ二^キ此^キ鈴^キ淋^キ
 羊^キい^キい^キを猶^{カド}勾^キ引^キらん
 花^キ小東上天の香ほ此^キ不^キ遠^キ
 几^キ小^キ舟^キを乗^キも 汗^キ南^キ梅^キ
 渚^キ 仙^キ 静^キ 青^キ 呂^キ

改夏

我^キ的人^キ不知^キ我^キを鳴^キものを子規^キ

前卷^キ小^キ出^キツと^キそ^キと^キ気^キ凱^キを感^キ
 て又^キ爰^キ一^キと^キ

晋子

あ^キの^キの^キ降^キり^キし^キえ^キの^キ桃^キの^キ心^キ
 山^キ 泻^キや^キ止^キ観^キ小^キ夏^キの^キ夕^キあ^キ
 朝^キ 貞^キ乃^キ 調^キち^キつ^キな^キゆ^キの^キ薰^キえ^キ
 一^キ瓢^キ此^キ酒^キ我^キ曉^キや^キほ^キく^キま^キ
 あ^キの^キ木^キの^キ花^キ散^キ下^キの^キ番^キ茶^キハ
 子^キ 皋^キ 野^キ 卜^キ 瓠^キ 千^キ 紫^キ 狐^キ 八^キ 水^キ

朝風や粟の咲間此甘臭キ 不允
 四ッ時のくしきしき夏衣 友巴
 散ル牡丹一日二日ハ拾ひク 趙人
 竹婦人夢ヨ来ル美女妬チ 几董
 蝦蟆と化シて夏日荷葉ヲ撃ツ 全
彩翡翠イ々々江尽セ 我不去ラ 八水
 蜘蛛子ヲお乃く巧持キ 麦水
 蜘蛛の子ヲ其夜心のあらきふ 素仁
 あの日やばらく栢葉の風をけが 之丸

行船ヲ尊く照れ波日陰 姿仙
 塩衣 夏のくきを孔浦邊哉 漁好
 浦人心を藻の花し川たきと 如雲
 子規親の思を知られく 池水
 哀し鶉舟浪此はと火の移り 如水
 けく鳴音ふまかと眼みふふ 十卵
全と麻川ル姫せこたふふ 可昌
 子規君ッあら酒 富ム一夜 斗醉
 いふれはく玉江の藻州川てふふ とミ

上ノ下ニ

上ノ下ニ

守_ル小_一屋_ヲ

黄_昏 老の日 媚よ 小_一笋 物_赤

稚の心物 此軽きを 斯_一衝_ルし 有_旨

命思へ 火ふくの 魚の闇路 飛 班_車

螢飛 貧をと 妨_クハ 此_一窓_地 馬_骨

鹿_此子 影_{かく}もを 我の哀_ハ 霞_亭

いさ牡丹 葩_{ハナヒラ}小_一書_{カキ} 酒_一買_ニ 貴_川

乙女 等_ウ小_一擲 幾_日のあやを 艸 里_布

葵_祭リ 争_ヒ七_七 水_と 日_南 牛_司

卯のまお 小_サあ_ハ 奇_{なる} 夏_夜月 枕_水

卯のま乃色 誰_一兔_を 咲_きらん 葦_雪

若_キ人_小嫩_ハ葉_ハえを_し 試_ニん 全

牡丹生_ク 扇_をかん_日を_得 三_枝

白_河のい_と 迅_{トク}去_ぬ かん_と 左_貞

所_クのな_らん

麦_{より}女_ヤ 一_ハ色_ハの歌_を 刈_ル 茂_陵

小_はまの_此餌_ハ味_えらん_夕 巢_立 女_久遊_遊

蝉_小色_ハ 姦_と聞_世我_を 車_萩

病後序あり
久しきを甘ふ

去^キち^クを^シ経^ル行^ク夕^ノ日^ヲ守^ル水^ノ鶏^ノ
と^クそ^ノル^ル焙^スる^ルま^をき^を盞^ノ
市^ノ小^ノ掛^カ秋^ヲを^シ壺^ノ中^ノの^ノ窠^ノか^をむ^ル
小^ノ女^ノ賢^ク綿^ヲを^シ副^ノ歌^ノ
狭^ク筵^ノの^ノ心^ヲ斐^ク一^ク月^ヲ占^ム小^ノ
身^ヲを^シ避^ク舟^ヲ明^ク日^ヲを^シ東^ノ
は^らひ^出ぬ^やハ^ハ唐^ノ土^ヲを^シ紗^ノ裏^ヲ吹^ク
車^ノ萩^ノ 茂^ノ陵^ノ 物^ノ赤^ノ 久^ノ遊^ノ 陵^ノ 萩^ノ 遊^ノ

ほ^ろと^と薄^クの^ノ穂^ヲれ^をう^へた^る徳^ノ
強^クそ^のあ^らま^き君^ヲ拈^ル藻^ノ髪^ヲ
貧^{しく}一^ニ帯^ヲ小^ノ年^ヲを^シ経^ル粟^ノ
西^ノ行^クつ^れく^く憎^ム呼^ビひ^を
壺^ノ小^ノこ^のほ^ろし^きふ^か一^日の^ノ露^ヲ
汝^ヲを^シ吹^ク美^ノ濃^ノの^ノ青^ノ聖^ノの^ノ月^ヲ白^クし^め
遠^ク地^ノ鶉^ノな^をし^め秋^ヲを^シ耕^ス
杵^ノ歌^ヲ御^ノ衣^ノの^ノ子^ヲよ^す瘦^ケ
川^ノを^シ波^ノ乃^を有^ク為^スを^シな^すう^へた^る
萩^ノ 赤^ノ 遊^ノ 萩^ノ 赤^ノ 遊^ノ 陵^ノ 萩^ノ 赤^ノ

花ハナふ我ガたのむ嵐ハルカも真マコトなりそ
 春ハル湖ウミの肺ホジかまふをたほゆ
 街マチさん漁イサ夫ウサを棹ササ捨スツ雉キス子コ
 漂シラ零ラ乃ナ長チカ短ミダ諺コトワザを俵ヒラ
 意イ坊ボウや意イを飾カズル日ヒれそ花ハナ
 忙マシき宿ヤドの雨アメを遺カハラシ綫セン
 吳ウ竹タケの蜘蛛サカズミ小コ風カゼ私シ語ゴ引ヒキ
 琵琶ギタ曉キキの魂タマを敷シキ敷シキ
 餓ガ鬼キや花ハナ乃ナ牡丹ボタン小コ蹠タビ躑シ
 赤アカ 陵リョウ 菘シュウ 遊ユウ 赤アカ 陵リョウ 菘シュウ 遊ユウ 赤アカ 陵リョウ 菘シュウ 遊ユウ

現イマ 芥カイの六ロク原ゲンと泣ナク
 よしヨシの石イシを掌テ
 今イマ 將マダろく月ツキ乃ナ忘ワシし井イ
 風カゼ狂キヤウふや松マツ露ツユ結ムスぶ年トシを
 蝶テフ々々秋アキ乃ナ中ナカをカかキすふ
 細ホソ代ダイ邊ヘリふハいハれの腹ハラや白シロかカん
 吁ウ朝アサ三サンの煙ケムリ 狙サシ公キミ
 求モト得トクるコトの菓ワガをクれ
 日ヒを北キタ賣ウらえ 彼カ是コノの市イチ
 赤アカ 陵リョウ 菘シュウ 遊ユウ 赤アカ 陵リョウ 菘シュウ 遊ユウ 赤アカ 陵リョウ 菘シュウ 遊ユウ

蕎麥なり茶花中譽を盛るん 陵
浴重ぬく 春乃衣々 遊

惜^テ花^ヲ不^レ拊^レ地^ヲト音子カ題小
好^テ酒^ヲ不^レ撰^レ肴^ヲ 取^レテ

甕^{モタ}守^リ 怠^リ 軒^キ 水^{エソ}夷^ク臭^ク 夢^ノ樂

夏興

郊のむやみく心まつるつら
肉小飽^クくつを牡丹小斐むん 杜乙
梨京

身此行衆誰ノ我追はん蚊遣ら 山父
あ水や是非の嵐なき破る色の蝉 丸く
同し虫の夕部を奪ふ蚊喰鳥 白虹
苗代の鳥追ふ老の薄てら 琴市
小岳原 風薫^ルとて蜘蛛又セツ 哺昔
牡丹花 幾日あらん日尔媚^{コト}や 魚列
火串^ホささく 戀路乃鹿の子小蘭 蘭如
くふと世の事きふ芭蕉善悪^{サガ}なるが 路扇
洪水小巢有^ルカささくつあ 芦雄

博庵毛白溝戯を造南京ノ将碁也

予是を好し局中ハ鷺鯉竜の三渡印木世三アリ

初渡 鷺

色白ふ瘦河ごしや九十川 桃甫吉谷子

二渡 鯉

琴高小乘味問ハ人臯月水 今

三渡 龍

夕立や領下乃珠の命置 今

近里

薯蕷ふと越の小郷ふ夏コシ ユヅト 十廿

苔清水猿小肝かふ夕下ハ 八日

賣つきん世や此命虫肥えよ 可耕

我を舊い世のさう麻生と侘ん 立架

空蝉やうき世の塵を拂ふ風 瑛水

蝸牛 我友なるをえよと来也 虎京

野不歸もさうと負しき夏の宿 如意里

世ハ何おたつさうと行 五月雨そ 馬蘭

住より此踊や老のちしきなり
 子く虫おのれ世経りぬ水荷ひ
 如斯なるハ空蟬いつ乃名小阿ん
 水端や西日薄多う鶉舟漕
 近江人と名残ル岐や牧やとら
 木曾路行く胡蝶ありれや夏の石
 旅硯世や暁乃真瓜畑
 我のちや世ハ篁り夏乃暮
 蚊屋を出る坐ス暁のあし川

小々雄
 趙丈
 二翠
 三枝
 左貞
 馬蘭
 芝青
 野水
 昆不

題詠 採蓮四句

芙蓉脛高し揚家此女年及も
 花を攀花や芙蓉のたもれ舟
 荷池小遊ふ此日茂叔り妻召ん
 蓮傾く露盛粧の妹り垂
 世の熱を倦ム予ハ腸を喰、蠅
 群牛暑と負て涎輪なせり鳥羽竹田
 はやえよ戸豹枕つゝあも竹奴

生佛
 亀友
 李康
 秋岸
 老山
 有鳳
 亀友

全 昔熱三句

郊外感アリニ

昧^ミ盈^ミリ 岡^ハ小^ハ蔓^コ乳 瓜^ハの^ハ濡 八水
お^ハろ^ハひ^ハ書^ハ己^ハ小^ハ剛^キき^ハ鶉^ハ乃^ハ競^ヒひ 全

田家眺望 有所思

孤^ミよ^ハ青^ハ田^ハ江^ハを^ハ破^カ裂^ク 小^ハ竹^ハ 棒^ハ 不^ハ在

空^ハ清^ハし^ハ舟^ハ何^ハ大^ハ古^ハ 星^ハ 螢^ハ 柳^ハ下^ハ 大^ハ聖^ハ寺

化^ハ文^ハ小^ハ夕^ハ負^ハ告^ハし^ハ裏^ハの^ハ道^ハ 二^ハ松

我^ハハ^ハ世^ハの^ハむ^ハへ^ハ面^ハあ^ハう^ハそ^ハか^ハん^ハと^ハ鳥^ハ 吳^ハ天

算^ハ 多^ハ分^ハ言^ハ 山^ハの^ハ東^ハと^ハ又^ハ 史^ハ雄

雨^ハ小^ハ聞^ハ夜^ハほ^ハく^ハま^ハん^ハ汝^ハを^ハ光^ラル^ル 梅^ハ三

萍^ハの^ハ世^ハを^ハと^ハく^ハね^ハふ^ハ夜^ハの^ハ月^ハ 鶉^ハ 升^ハ 女

白^ハ勝^ハを^ハ紅^ハ井^ハ負^ハを^ハ 夕^ハ牡^ハ丹^ハ 大^ハ魯

太^ハ液^ハや^ハ嶋^ハ原^ハ小^ハ聖^ハの^ハ湯^ハ屋^ハ蓮^ハ 玉^ハ壺

狂^ハ歌^ハ坊^ハ 世^ハを^ハ故^ハの^ハと^ハし^ハ草^ハ小^ハ眠^ハ 吾^ハ角

身^ハハ^ハ茂^ハ或^ハル^ハほ^ハく^ハき^ハを^ハと^ハ月^ハ夜^ハ押^ハス 鮮^ハ明

世^ハハ^ハ誠^ハ 艾^ハ虎^ハ戴^ハく^ハ子^ハや^ハ父^ハや 桐^ハ江

薰^ハし^ハ我^ハ竹^ハい^ハと^ハ地^ハよく^ハ夏^ハの^ハ色^ハ 仙^ハ夫

朝^ハ日^ハと^ハく^ハ又^ハや^ハ小^ハ枝^ハの^ハ蛙^ハ青^ハ山^ハ椒^ハ 九^ハ峰

渚^シ浅^ク之^レ鳥^ノ魚^ノ喰^フふあつとわ
熊^ノ野^ノ歩^ブ歩^クかたはら五郡の百合を
螢^ノ火^ノや光^リの^ノ間^ノ 四尺^ノ汁^ノぢぢれ
水角 曾呂 丙穴

きんぬの禪定^ニ 等しく倦^ム不^レ戯^シして

雷^ノ鳥^ハ不^レ知^ラ日^ハ白^ク山^ノの夏^ニと鳴^ク
騷^ル人^ノ雲^ヲを踏^ミて 涼^ムおん
松^ノ荊^ノ千^ノ代^ノ経^ヲや 国^ノ乃^チ 器^ノ
みとらし水^ノ晶^ノ 髻^ヲ無^クを振^ヒひし
二翠 巫三 南畝 杜呂

かまろ^ウ此^レ我^ノ相^チ遅^ク々^々ふ冬^ノぞく月^ノ一^ノ呂^ノ宙^ノ
たらし^キ照^ス射^ノの^ノ業^ヲ 秋^ノ来^ルお
朝^ノさ^レれや 雲^ノ潜^ル 鴨^ノの是^レ非^ノ尙^ク
きせふを^クう^ク玉^ノ垂^ルと^クえし
い^ハら^ハら九^ノ奈^ノ落^ヲを^クえ^クふ岐^ノ照^ル
唄^ヲり^キせ^クぬ^ク恋^ヲよ^ク否^クは^ク是^レ
文字^ノ摺^ノ乃^チ媚^ク 納^メ言^ハ 坐^シ院^ノ
さなる葛^ノ珠^ノの^ノ標^ヲ 賣^ルま^シし
巨^ノ々^ノ等^ノ人^ノより 純^ノ陽^ノの素^ノふ寄^ル
呂 宙 翠 畝 三 呂 翠 宙 三 呂

上三六

月^{カク}隱^レ井^ノ小^カか^ク通^スなる^ク布
 掌^{タテ}乃^ハ轉^スを^レ從^ズ者^サ此^ノ凡^ソ情^ヲを^レ
 身^ヲを^レ大^ニ盃^ノ小^カ言^フ仰^クク^ク象^ヲ
 花^ノ流^ヲを^レ蘭^ノ亭^ノ此^ノ日^ノ小^カ然^ルを^レ
 枝^ノ折^ル山^ノ吹^ク陰^ノ山^ノの^ノ蕭^々
 々々^ニと^シ世^ヲを^レ農^ム多^ク瘦^ク僧^ノ都^ノ
 塩^ノ三^ノ斤^ヲを^レ瓢^ノ罍^ノ小^カ入^レ
 物^ノ非^ズなり^ク鞍^ノ小^カ胡^ノ坐^ノの^ノ松^ノ嶋^ノや
 父^ノ呼^ブ子^ノ鳥^ノ風^ノを^レ吞^ムせ^ル
 畝^ノ 宙^ノ 二^ノ 畝^ノ 呂^ノ 翠^ノ 宙^ノ 三^ノ 畝^ノ

楯^{ホウ}此^ノ関^ノ漢^ノ子^ハ二十^ハの^ノ飢^ヲを^レ
 錢^ノ曙^ノ神^ノの^ノ智^ヲを^レな^スを^レ
 酸^ク辛^ク酒^ノ噴^クと^シ瑞^ノ雞^ノ小^カ
 鎧^ヲを^レ隱^スを^レ正^ノの^ノ弱^ノ女^ノ
 頼^メて^シ泪^ヲを^レ袖^ノ小^カち^カふ^ク武^ノ
 文^ヲを^レ子^ノ乳^ノ鯉^ノを^レ切^ルを^レ
 呼^ブ迷^ヒ月^ノ此^ノ主^ノ水^ノと^シ朽^ル如^クん
 凡^ソ寸^ノ陰^ノ小^カ換^ルを^レ朝^ノ魚^ノ
 樹^ノ化^スて^シ露^ヲを^レ寂^クせ^ルを^レ狐^ノ山^ノ
 畝^ノ 宙^ノ 二^ノ 畝^ノ 呂^ノ 翠^ノ 宙^ノ 三^ノ 畝^ノ

下夜 沙^ス馬^モ大^ダ刺^ダ 香^カを^ヲ銜^テ泊^ル 呂
 賣^ウら^ル人^トを^シて 浮^ウ世^ノの^タら^シけ^ヲ 祭^ハ白^ク撰^ル
 気^キ凱^キ開^ケ々^々 宗^{ソウ}鑑^{ケン}を^シ 飽^マ
 花^ハ々^々を^シて 笑^エま^シて^シ 道^{ミチ}熟^シ宿^シ
 否^イ漂^ヒ泊^ル 蛙^カ声^ノ 宇宙^ノ

新 鹿 栗 上 巻 終

予^コこ^トし^テ撰^ル集^ル半^クう^テ浪^ノ華^ヲ
 小^コ遊^ノ浪^ノ華^ノの^{凡^ソ友^ト教^ヘテ^{行^ク}}
 依^テテ^{附^ク}言^ハ小^コ類^ノ一^トて^{終^ル}
 果^シて^{愛^ス}小^コ載^ス也^{ナリ}

晋子ふ^ハ風^ノを^シ世^ノを^シ拾^ルり^ハ女^ノみ^ハ行^ク栗^ノむ^ハ
 む^ハへ^ハ人^ノ稀^クなる^ハ愛^スふ^ハ是^レを^シ拾^ルり^ハ
 玉^ノなる^ハと^モ其^ノを^シ金^ノ珠^ノの^{標^シ}鹿^ノ主人^ノ乎^{ナリ}
 此^レ頃^ニ曾^シる^ハ京^ノ攝^ノの^{間^ニ}小^コ携^ルへ^テ行^クて^ヤ其^ノ
 実^ヲを^シつ^テ植^ルん^トも^ヤ予^ハ曰^ク風^ノお^いき^り載^ル
 き^ハ所^ニあ^らん^り君^ノ先^ツ試^ムふ^ハソ^レへ^テ吾^ハも^シこ
 試^ムふ^ハ和^セん^と和^セん^とて^{契^ス}其^ノ意^ヲ
 を^シ蘭^ノを^シ其^ノ小^コ四^ノ味^ヲを^シ一^ト眼^ノを^シ苦^ク耳^ノを^シ苦^ク
 其^ノほ^ハ李^ノ杜^ノの^{心^ヲ}酒^ヲ舌^ヲ嘗^ムる^ハも^シあ^らん^とん

さ山の法粥口もくもくかきしる化ハ寧
鼎火^{トモシ}をうして向敷せむ龍泉ふ
流りより文字鈍し熟をん鈍^キ下
一巻束まらしむるあまのやちりぬそ
礎として梓^ニものし新^ニのし栗^ニ
題せむしつふま是案のふれ志具理
かして案^ニ拾ふ^ニのちの^ニ所^ニ年^ニ

浪華^ノ 二柳主人^ト云

再會

山河三^トもと 霜葉玉を埋^ニわれ 二柳
胡馬冬忘^スふ 風の陽^ニ 傳庵
あまのさらく弓取^ニあふや無^キはらむ 令
人不^レ住^ス ながく家^ニい^ニる^ニ遠^ク 柳
槐^ニ枝^ニま^ニり^テ 夜^ニが^ニ月^ニを^ニ 雨^ニラス 三
秋鹿^ニ此^ニ記^ニを^ニ半^ニふ^ニ捨^ツ 庵
さ^ニや^ニら^ニや^ニ寸^ニ坊^ニ伽^ニの^ニ團^ニ扇^ニ襲^カ 三
雪^ハ吾^ノ君^ノの^ニく^ニき^ニ志^ニを^ニお 柳

秋蠅此道心トシシムききき群り尔

葛明月此窓を妨コト

蓋の黄花琥珀の影コトや凝コト

七賢橋のウツクキ嘯コトと獵カレ

虎リの子をウツクき世ふたふ誰やん

樞集ウツクきき小霧旅のコト責コト

楳比戸の透間星射る小夜更コト

南朝四百鐘樹コトとオス壓コト

吟満コトく具享の花々コトの暎コトじ

全

柳

庵

全

柳

と

庵

全

安永あきく 後北盗人 柳

二柳菴月次席

霜朝ほくく干泻乃岸小風支 秋屋

寒路鷺一寸此 魚スナトを漁コトれ 二柳

詩コトと眠コトれ摩詰コトの童コトの側コトラコト尔 三曉

是コト小凝コトル 富の秋を白コトうコトれ 有鳳

桑の木此荒コトかコトふ月乃徒コトラコト和 李康

孝イナヒ著コトき 笠小穿コトきコトじ 弄哦

ぐら鳴くオウナ 姫腸ヒメナ 繡ヌイ 生ナマ 備ヒ
 星ホシ 良ヨシ 暗ク 項コウ 羽ウ を 怨ウラミ 心ココロ
 湖ウミ 盡ツクシ も 古コ を 江エ 東トウ の 曝サシ むし
 芦アシ られ 葉ハ 了マツル 細ホソ 道ミチ を 折マゲ
 衣ウレ の 遅オソ う 靴ツチウ タン
 苦ニガ 蔵クラ 人ヒト と ちり ちり ちり ちり
 酒サケ ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり
 黍アヲ の ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり
 遠トホ 視ミ の 秋アキ 水ミヅ 燈トウ ぬき 哉ナニ
 魚イサ 笋タケノコ 変カ 水ミヅ 守モリ 大オホ 百ヒャク 洲シマ 魯ロ 文モン 龜カメ 友トモ

腰ウシ 刀ヤ 鑄コ 年トシ 魚イサ を 貪メ れ
 諛ウソ ハ 乾カ 坤コン ちり 香カ 花ハナ を 納イ
 繞マ 十ジュウ 歩ポ 此ココ 小コ 田タ の 代トコロ 々々
 山ヤマ を 卷マ 霞カスミ 孤コ 村ムラ の 名ナ を 埋カ
 松マツ 浦ウラ 出デ 船フネ の 潜カ る 舞マユ
 布ヌ 太オホ ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり
 恋コイ 尚ナカ 思シ 君キミ の 黒クロ 髪カミ を 剃カ
 と ちり ちり 已マ 離カ 行ユク 蓬モウ 生ナマ 哉ナニ
 御ミコ 狩カ の 鼓ウタ 富トヨ 士シ 魅ヒ
 佛ブツ 友トモ 文モン 唐カラ 大オホ 暁アカツキ 非ヒ 屋ヤ 春ハル

赤えくの下の三日月下長屋
異郷此秋小十年身埋
青夫小おのれ文字なる雁や文
媚心なる夕々れを視
小鍋なるある院の樂よ耽
佐夜更々深雪松風を吞
葛城や高間乃仕業志も
加持狂亂の唄小刀ス
班鳩の色夢殿小明志

大康笋晓水鳳柳屋哦

百済クダラ新羅シラキ乃ニ戒エヒス見々表
礼捧サシケ寶タカラ之々々筆ヒトこゝよ
何々々ナニナニ栗トリス実生ミハエ藥ヒコハエ

筆ヒ斬

漫興

侘禅所ワザン乾鮭カンザク小白頭コハクの吟カガを彫
小夜の霜コノヨノシロ夢の故人オヒウを逐オヒクて見
誰タレ所トコロ也ナリ雪ユキ小麻コウマぬ夜ヨの魚イサれ骨ボネ

恐見五侯家ナラン

大魯 莖村 晋明

ワさろくの夜月しとく捨河邊

樗庵

樗庵主飯に

此叟歸郷寒雨燭の火と焚思ひ

秋屋

全

雪もろや寒駢策入湖の陽

生佛

改秋

胡^コ兔^キ其實の吸物椀小まろりり

北枝

頬返一の成らぬばと粉喰小猿を

乙由

此山中集小又海潮の末を
いとらう麦林集小ハミミヤ

笑ハせん

何ふ吹て決わりし係少く

麥水

秋きぬや古人をよりの夜をもろり

之丸

七箇の水小
ものちとち

寐てさりて化待一夜やつ星

不充

うつろひ衣脊よかきん 秋 加水

人知くぬ思ひを休ふ 蟻斬小 甘谷

木進 露を閣思君一 聲 八水

坐篤小 白一 各月を 遠恨 何山

魚将小 沖ッ 船のかこてる 柳下

酒債 何妻一 幣小 謀リ 喰小 べき 友巴

未練の狐 塞小 恋寄 紫狐

みろれ降 足羽の宮此 可愛しく 友子

乞食 常盤のうき 寐るるる 二杜

荊オトいつ 斐 十寸鏡 磨ク 日を 吳天

黄一金 吉原ノ 鑄ニ 名一月 東岸

蛙の媚 文盲の 姐板わ 趙人

霧吹 味之 富たりれり 野水

春曙 ぼの 西行ッ 恋哥 撰 史雄

小女 哲 七種を 汲ム 尤

花小 身此 ね 世を化粧も 加

天下 繡 糊の香小 過 谷

伸正小 御私 ありし 終夜 八

郭^ノ武^ノ士^ノ志^ノの^ヒ音^ノ名^ニ

か^レれ^ニ兼^テ垣^ノ間^ノ卯^ノの^花窓^カら^シ

い^ッき^ニ眼^ノ善^カ悪^カれ^ルを^シる^ル

興^ルろ^クし^テ三^ノ野^ノ小^ノ下^トも^ニ笙^ヲ鼓^ス

日^ノ東^ノ東^ノ施^テ何^レ儼^シ袖^ヲ

加^ハ賀^シ笠^ノの^雪乃^白き^小菊^トと^そ

有^ラん^レ此^ノ雪^ノな^りし^目を^引

鬢^ノ黒^ノの^雁妹^ウら^もと^るあ^らふ^月

ひ^ぞア^をカ^ム錦^ノ島^ノ臺^ノ

山 下 巴 狐 天 利 友 八 人

他^ノ語^ヲも^もと^と風^ノ流^者の^梅此^名也^ル

籠^ノ珠^茶旗^ノの^美き^ほく^つれ

寄^シ檢^也粉^ノ首^チら^もほ^れる^ん

髪^のつ^らと^つに^鄙び^ころ^ぬ

髪^ヲ織^ル入^ル羅^ノ襦^ノ血^ヲを^致

天^ノ神^ノ護^ニ意^ノ卷^ヲ

花^ノ咲^リ人^ノ營^ノの^舌な^らむ^也

第^五の^後輩^ノの^山吹

野 雄 尤 如 谷 八 巴 狐

わさうば何をも真昼の非をてしひ
物赤
早吹りさきも 心や秋子あしぬ
社藤
松虫のさう夜もさしお小瓜さ
久道
蛸の日もさしけうきむらそ
雨調
らあをせふうき朝魚の浅くじん
六童
なやあ身をも朝顔の花の露
池水
宿妻をえい、珍をもとらてえよ
梨京

思の事わさし

星巾いよ、去年の七夕相近し
やま

乗む龍の鳴してよ天の河祝
素仁

おもぢうらなせとこなきこのうらな

まふ玉の五つ丸のともや志

心をトとれよ

戀ノ字引

一草亭

や、願ふ系う言をめぐり流
素連

偶意

いいの日れ求まらし芭蕉欺り
吳侯
むつりし乃世を朝顔の花笑ふん
巨卵

稲妻をかるんまは世の斬哉

白鳥

よき日なり芙蓉の庭の尼法師

若く

盆過や寐火も切籠を燈し捨

八水

三四山を算の僕と狂ひん

不尤

雁もばく寐覺や夢を破る刀

姿仙

武士のや目あさ小餘月満夜

漁子

明月れあゆ我齡とこそ経免

友巴

書小耽る人のうやこし

清嵐

おれ答えし世と我と秋の風立し

馬蔭

芙蓉吹ケ胸も古今の匂

卓五

人並これ飯巾朝魚も見え起て

馬丈

山れ尾故材の平吾うもやへ

麻の鳴をさふ行く

へも訪ふ訪よ神の麻の声

子臈

やまうこ此秋を屠ふ見ん月如し

二翠

意や何れと世を菊萱の鄙手経流

巫山

廿日あらず色干虫の如是聞ん

呂宙

狂りしき人ふる合こ風乃律

南畝

扱し魂換カユ巾小鹿の巾と乃暮 十廿

感懐

鮎アユよ鮎日乃蹉跎ハヤチ雨早ハヤチ風 全

秋月髪カミふかゝる身をと照アキル 変水

窓マド蓋オホふ九尺の紫苑香ムラサキふ蘭ランて 女成

ちち薬クシ此理を忘れ去サれ 井

世ヨをうたふ腹海ハラウミを作ツクき響ヒビキき 水

巾フキは木枯キの年波トシナミをこゝれ 成

神カミ換カヒル恨ウラミ浅茅生アサヒ朝日影 井

待従心の後家ウチノノチきこむキふ 水

をうウこコ此得ウちチをヲ恋コイを衣キふキ 成

足柄タラシ此酒サケ 松風マツカゼ 耽ツル 井

幻マヤカシ此伊豆イヅの小島コノシマそ多オホうウ多タうウ 水

所作ソウサク幾暮イツムの白シロ削キル 八目

朱アカあアもモ眼メ天漢テンカン此月コノツキそソ 井

五丈秋イツサヤ飛トビ 孤コ鴉カラス 乃 色

いイれレうウ修羅王祭シラノウマツリル房イヘ薄ウスキ

露置ツルこコの夕陰ユフカゲを迫セム 水目

棹の歌々そち此花の儂と縁ユ成
 りりり耻きぬ吳下のきけりニ全
 日ニ也目ふ干ホユよりハおき返さハ水
 堀の座頭へ落し上古カミ目
 今や目 怪異を看るものせん

郊外

杖も折しよより一命此花野 布下
 月やひやし志賀小酒造サカヤのを世有リ 有貢

いせせめて風さうしこの下紅葉 梨京

越後、行路難 駒返りコマ

老馬ウマのアケ夕タ小往來ユキ卧ユ車菽
 秋の蝶テフらカも低カ成カぬカやカ里桂
 拙ツツと此身鳴らさんカ鳅カ 院古
 蝶テフそよ此心の秋雨戦カひカ
 老てちカりカ又恥カうカさ衣カ之カ鳥和
 何をカなんカ此カ鳴カ秋月夜鹿カ 嶺花
 朝暮ツク小露コ適タ哀カ 艸の莖 雲和

草の実比露を幾世の罪なるり
 身をつ免はせられやをせし綿取女
 秋の野を食へたる人の哀なるん
 壺の戯し人をも紅葉廿日な流
 柿流し夕日小のこる市女哉
 濁酒一器已あそれむ隣りな
 時来るる水のきをらめさし鮎そ
 鳴鹿よこやこれ去る舎り多
 うき我小礎うて今ハ又や休称
 花尺 瓜云 里山 湖山 琴市 三九 一笑 不丸 無村

題詠 擣衣三句 秋中五言

擣衣音如半窓娥媚の月小寐
 礎小夜更て竟ハ故郷の閨小臥
 夜々夫小凝ル涙を今中礎セリ
 殊去るんて艸々露の珠を泣
 草秋更て歌舞の地露を夢置
 蝶とばし一叢菊の一夜をとぬん
 艸花をとくは虫周カ魂を嬌
 深木軒小朽く草徒ら小錦なり
 李康 直墨 水綾 弄咳 生佛 杜虹 魯文 魚波

夜望

高燈籠 微雨 誰家を位も元
黄一葉 残りも落さず 斯^{カク}了
東門
朱^{ツルギ}絃

山中医王密寺に蟠龍石と傳ふ水盤
ありてあましく絶えざるを以て
深山大澤 竜蛇を生む也

龍^ク 石^ク 雲曳 起る 幾秋也
漁日

心ま

雲^ク 雨^ク うれ 蟠竜の秋も 遇^ユ
八水

洞^{ツツ} 卧^レ 猪^イ うかき 出^ル 久^ク 免^メ 蒼^{ソウ} 聖^{セイ} 床^ト
小夜ゆ^ウ 青^{アヲ} 柿^{カキ} 落^ル 沓^カ 此^{コノ} 音^ネ
いさ^イ 下^カ カ^カ 士^シ 芙蓉^{フヨウ} の 日^ヒ 陰^{カゲ} な^ニ 久^ク 乳^ニ
無^ム 下^カ の 媚^メ 徒^タ 空^{カラ} 療^{リョウ} を 吹^フ 薄^{ハク}
意^イ 不^フ 倦^{ケン} 絲^{イト} 瓜^{ウリ} の 斗^ツ 長^{チカ} リ 哉^カ
竹^{タケ} 裏^{ウラ} 避^ヒ 道^{ミチ} 秋^{アキ} 風^{カゼ} 我^ワ を 泣^{ナク} 更^{マシ} し
沽^カ 舊^コ この 虫^{ムシ} の 家^{イヘ} の 月^{ツキ} 夜^ヨ 哉^カ
う^ウ さ^サ 女^メ 夜^ヨ 此^{コノ} 月^{ツキ} 畑^{タテ} う^ウ き^キ ん^ン 姿^{サマ} う^ウ を
帰^キ ル 何^{ナニ} う^ウ 物^{モノ} 問^ト かん
大聖古^{オホセイコ} 友^{トモ} 子^コ
歌^{ウタ} 夕^{ユフ}
吳^ウ 天^{テン}
史^シ 雄^{ユウ}
何^{ナニ} 山^{ヤマ}
如^ニ 水^{ミヅ}
野^ノ 水^{ミヅ}
葩^ハ 文^{モン}
鴉^カ 邨^{ムラ}

色雁や羨目を鳴宮の竹 燕市

月久や偽りの風情過たらん 南畝

月艸や是非を岩守の山まの 巫三

中繩無月

十六夜小 天晴月とも 露命 宙存

菊三吟

菊よく人白玉を尽さん 吳天

たしこあし思ひつれそ 瘦菊を 二杣

菊うりす 涙此日小着せ綿所 趙人

美濃柿の志を喰らひる 俳門 児童

長崎小遊ひ日故あつて紅毛館ハル
出島ノ臺ハトルノ役 アルマナルトヤ
宴を此事ありし其日ハ多月の十五日也
宵此月甚夕明カなる

いそむるへ 豚名月と真むづき 樗庵

大宰府聖廟

神寂や秋蝉 我ふいしむりま 今

荻萱の関のあり

秋霜の威や今きつたもみぢ 今

色なきを蜻蛉無念ふる由る哉 可昌

おのひ入る夜に白菊 我魂り 蘭杜

蓼の穂に色つともある哉紫菀の秋 道立

働老杜破屋歌

聖分の夕盗人 交を欺くや 晋明

所思

宗祇我を恋ふ夜眉毛小月の 露を貫 蕪村

自得

他小暮らむ秋風多小睡剪ル 元備連 文暕

芦エト毎小暮ルわ〜〜 巾捨沢邊 元吉百州洞 子敬

鹿追人 薄月凄キ 壺中る乳 芝水

徒小鳴ル 猿巾霜夜 北の海 歌汀

雲飛く 黄州穿ッ 尸女 色 芝青

誰らわ〜物目かきん菊の露小起 女 いへ

浮雲の〜 巾玉垣 忍小 艸 なる

斐き〜ん 尸巾よ〜り 此〜心 いよ

さ〜ゆ〜身小え〜この月明し 素宿

裏枯の〜れ〜〜地よ 化世 咲 夏静

露きしやよく聞ハ蝉の色なるし 露頂
 果も布是も布なり夜寒哉 夜閑
 夕なく否言喰ふ船舟中 梅三
 二星疎し予う思妻小様えそ 梅加
 一葉落 人情の巧ニ我やなき 徒丸

歌僊

唐かきし 秋の一味をはゆる委 亀選
 向上 爰小 小路 なるき 月 標庵

今や入 鹿色小臺築きぬれ 文聰
 雜官 いも乃 繪を好ム常 和伎
 笑ふへし 囊中 酒小敵せらる 左京
 冬もれやよく 湖と 歴ス 梅加
 誰をまの何うのさる 何小似ツ 徒丸
 恋夕らるる 下習 夢を卧ス 選
 卧柴の 樵木 町なる 文悪小 庵
 樽をうけ 憂あし せり 睡
 宗をたりし 乳老尼の小舌果をし 如 伎

つれ寐ぬ夜半 無下の一燈
世を憤れ昨日の離情略空し
秋風を船 鉤一敲 眞
石暑し西施を月此眉を
止事なきを 飛 穿ふ 孕れ
閑ヶたん華一山の陰此筮
火焚ぬ今日をと巢の鴻や知る
流寄ル木小毗婁遮那を画 朧
布衣七十此 寂髪を 震り

京 睡 庵 茄 佼 遜 庵 丸 京

亢言や傾里の假事 是ななき
弦断し 化醒る 酔
五月雨不干珠投入て拳張
豪気とあるひ筆と深む誰
捨む配所の御所地木振能
百畝熟して 長初 笑
月吹や天地五日の夕さし
馬蹄花のるき小鷹の狩 名
六七よ君紫結び 年 若

選 丸 京 睡 庵 茄 佼 遜 庵 丸 京

雅^レ僧^ハつ^レね^レし^レか^レつ^レわ^レる^レれ^レふ^レと
 塩^ク粥^ハ此^レ并^レ聖^ノの^レや^レわ^レか^レる^レ風^呂不
 思^ハひ^ハな^レし^レ知^レ已^レま^レし^レ逢^レ
 秘^シ事^ハ蒙^リて^レ歌^ハ舞^ハ一^流の^レか^レぎ^也
 故^ハて^レか^レと^レし^レ七^年一^レ此^レ春
 鳥^トあ^レり^レの^レ花^ノの^レ向^上路
 東^ト行^カ西^カ行^カま^レれ^レ日^ノ意^味暮^ル蝶
 睡 伎 丸 笳 京 庵 選

上冬

僧ハ 歸^ルれ^レま^レる^レの^レ道^ヲ初^メし^レれ^レ 麥^林

まつら^しの^レ傘^ヲ 塔^以て^レま^レる^レ

病^僂よ^レ誰^レの^レ減^ルと^レ 小^重箱^僧 無^笛
 木^がし^レや^レ身^ハ消^カす^レの^レ乞^食ど^も 女^成
 面^ナり^レや^レ落^葉も^レ不^レ日^レ此^レ命^ハあ^レ 東^門
 志^まる^レを^レ盜^マれ^レ行^ク猫^の色^如芳^如
 雲^計ふ^レ世^ヲと^レし^レ人^ハな^らず^と 五^脚

雪をものゝ年や嗟詭うと世の哀
しむる花されきりよん孤の鳥
名のまゝ火燧院しき世捨衣
黒鴨のあまうみ世と成ふえ
鳴千の鳥花更し水のうらる哉
落葉かく賤の心や深うらる免
ひりし其仏の原や 雪満乳
鷺のうら心恋を越さる夜
衣手の蕎麥湯 約きおしけ
竟胡 漁好 如水 姿仙 之丸 左柳 雨調 梨黄 白鳥

町しとれ浴中ふいとを故人物
夢をてて 鬼埋む 夜の雪
客船無酒 風人をまれ堤
舟行
夢を裂つ淡路の千鳥紀の月夜
宮怨
鞆路生牝うら氷乾 轍哉
山茶花や院の窠ふ咲ひふし
落葉ふく枯果し身の安キ卦
大魯 道立 洛 美角 二柳 八水 甘谷 柳下

むし守彼やハアサ夜明なる
 鹿カ苦鳥吾ハ向カくを鳴カとくハ
 狐叩カ雪の暖戸カ借カき
 風寒し鳥啼カ原の雪此カを
 笠ふし十夜カ小カえせる心なる
 雲悩カ駒よ肥満カの年カ籠カ
 甲斐の雨雪カ猿卷カ曉カ此カとく色
 我朝カ善カ悪カ乳カとく雪カ此カ情
 伊カとく幾カ夜重カねて此カ所カ走
 宙存
 友巳
 加木
 柳下
 史雄
 不充
 良明
 樂水
 在卿

氷カるん夜明カの女君カふカとくカし山 祖竹

瓢箪カ菴カ之カ喰

翩カ々カ々カ 似カ菩薩カとく袖カ此カ雪浪 玉東
 寒カ共カ鳥カ 遊カ此カ山路カの人カ下カさカ 住花
 貧カ苦カをカ 徳カ利カのカ超カ日カをカなカ 丁固
 鈍カ苦カ鳥カ先カをカくカのカ事カをカ唱カ 把木
 ばいれカとく雪カ又カ初カをカれカ前カをカ掛鶴
 失カぬカ色カや落カ葉カの朝カ待カけ 蛙吹
 踞カり城 鶴カや端 旭カ小カ 霜カをカ解カ 九郎

火桶抱^ッ 盡^レ小^レあ^レき^レき^レ 已^レ 近江 江涯
不二の雪^{オホカヒ} 頤^カ 氷^コ 氷^コ 望^ミ 望^ミ 蘭杜
曉の炉^ノ 不^レ深山木乃^レ 髑^ノ 髑^ノ 骸^ノ 哉^ニ 晋明

画中ノ八

心^ノ 迫^ル 旅^ノ 山^ノ 此^ノ 鐘^ノ 止^ル 時^ノ 雨^ノ 降^ル 呂宙
木^ノ 如^ク 如^ク 我^ノ 世^ノ 殘^ル 軒^ノ 警^ノ の 鳴^ル 杜^ノ 呂
心^ノ 只^ク 何^レ 是^レ 一^ツ 第^ノ 季^ノ 候^ノ 也^ニ 社^ノ 藤
雲^ノ 井^ノ 人^ノ 小^レ 知^ラ せ^テ 了^ル 哉^ニ 冬^ノ 籠^リ 市^ノ 川
君^ノ 亦^ク 小^レ 知^ラ せ^テ 了^ル 哉^ニ 年^ノ 一^ツ 忘^ル 也^ニ 歌^ノ 風
女

雲^ノ を^レ え^テ 雪^ノ 車^ノ 巧^ク 世^ノ の 哀^シ 哉^ニ 柴^ノ 扉
う^キ 命^ノ 捐^ル の 身^ノ あ^ラ ず^ク 々^々 也^ニ 魚^ノ 發

寒夜

鐘^ノ 光^シ 色^シ 饑^ク 鼠^ノ 糞^ヲ を 食^フ 子^ノ 也^ニ 蘇^ノ 村
十月十夜 梁^ノ 小^レ 動^ク 蹴^リ 上^ケ 砂^ノ 亞^ノ 岱^ノ
雪^ヲ を 煮^ク 吳^ノ 天^ノ の 雪^ヲ を 興^ル 兮^ニ 何^レ 也^ニ 志^ノ 慶
尼^ノ 君^ノ の 火^ノ 桶^ノ 片^ヲ 々^々 せ^ウ ぬ^ル 魚^ノ 波
何^レ 虫^ノ ぞ^レ あ^ラ ば^レ 火^ノ 桶^ノ の 花^ノ 小^レ 多^ク 也^ニ 龜^ノ 友
致^シ 仕^ノ の 夕^ノ 三^ツ 梳^ヲ を 増^ス ふ^ク 也^ニ 大^ノ 魯

霜小嘆も 蟬 鬚も 握り けり

大魯

園の 錦の 州の 杖を 裁 几董

丁くと 古院 小斧を 手をも ぬき

身の しる 衣 陽 火を 着 魯

魚 餌 小 飽て 彼 間 小 月 ねほろ

柳 小 富く 漕く 孤り 舟 董

阿^ウ爺の 背くつは 木 小 足 を 下^下す

董村

孝子 厨 小 河豚 を 調^調

日ほろの 暗夜 小 雪を ころ 礫

董

うきハ 五尺の 身 茂を の 小 山

魯

三十 経る 次郎 小 胤を 妊^妊らん

董

茶 小 うこ かの の 粥を 喰^喰

村

犁^{カラスキ}と 書 小 えて 負 小 あま 足^足

魯

婦 小 姨 戸 小 入 影を 影 盗^盗 屋^屋

董

水 辛^辛 小 木の 濁 酒を 醸^醸 すらん

村

腹 小 鼓を あら 田 年 何^何

魯

妻子 足 孔つと くら 谷 小 溺^溺 馬^馬

董

心さくおくきあふもの
分

煮^ル河^鮎 四章

磯^ノ馴^レ鰻^ノ 君子の釣^リ小^ナり^シル 二柳

腋^ヲを^シ鼓^シて^シ罵^ラく^ニ河^豚 我^ヲを^シく^ニ 雙魚

衆^ニ已^ハ不^レ飽^ムぬ^ニ馬^塊不^レ捨^ル 河^豚の^骨 李康

河^豚人^ヲを^シ不^レ毒^セ 人^中く^ニは^レ輾^ル毒^ス 見道

雪^夜吟 六句

雪^をし^テ灯^ス 窓^ノ 宗^鑑り^シ世^ヲ捨^ル 竹 魯文

雪^ノの^狂夜^深し^シ 馬^ノ不^レ酒^飼ん 二柳

酒^夜蘭^ノく^ニ夢^ハ 吳^天の^雪不^レ 百^非

竹^をし^テ起^テ更^行雪^ノ不^レ口^をも^シ 弄^峨

誰^ノ心^輕舟^と成^ラし^シ 夜^半の^雪 志^慶

雪^風を^シ吹^テ鐘^を山^の漢^を送^ル 李^康

送^別

離^歌幾^回 击^テし^テけ^九 雪^をと^打 亀^友

河^梁霜^寒し^シ 乱^レし^テ君^ノ履^の 百^非

東^籬菊^がも^も 君^待熟^シ 酒 魯^文

柳下ニ相お^ル 雪セハ馬小瓢せよ 孝康

袖上^{シウシヤウ} 雪芳一田鶴小鞭人去^ル日 弄鳳

日南の珠なるや 霓離別の袖 弄凌

雪満天やうや 越路小帰^ル人 三曉

季句不尽趣 白鶴^{とくま} 雪小む^ハ 楮冠

再送樗菴歸^レニ

酒なるらんや 鞍上詩腸氷らる^ル 生佛

去年ハ君小送^レりて南^ノ 今ハ君^ハ北^ニす^レるを送^レれ

夢小入り来^レ 雪路も^も 松小夜^ノを 二柳

北地雪景

雪かくも 面ふせ^ル 妹の宿 女成

老ぬ^も 乳母小逢^フ 年の市 柶衣

世を^{アケ} 舉^ル 風きく夜心すめ 虚堂

落葉干^ス 尋^ル 人心 里布

樓小眠^ル 傾客の月 穿^ッ 雪^ッ 湖山

望^ミ 足^ル 頃ハ哀の冬さ^る 鬼笑

推夫哀^レ 擔頭の雪年^ノ 類^ノ 仙夫

物ハ只等閑小^ハ 古^キ ち^ウ 艸 初江

大方の夜を平ねてき雪阿志
 冬乃叶らねて此日を知る
 紅葉散る嵐や書人佞らし
 是非いささか人小佞らん冬の梅
 人中斯魚乃目ねて冬カクの月
 冬牡丹、くくさふ媚わさ
 蒼冬て松よ化し聖志を世そ
 茶山花を斗ふ心世不足も
 火燧かく物のゆるむハ起り免
 丁黄 吳侯 車菽 秤魁 八何 魚列 杜乙 渡雪 駟光

木うゝの這入ル 瓢とたゞり
 惑ふ夜や向ふ風ルの疾を鳴る 馬勃
 類ひなき聖や憂僧都ル 芦仙
 猿の夜を明なんや 夢月時雨 逸山
 六の類ひ化てふ 粟不結小世了 蓬渚
 時雨もや 潇湘の夜ハ 蕭々タリ 古角
 我世も 雪見とて成る 百夫

羊内立春

やし仕舞 予り遷カク 春意満 八水

年わを此空囊と中不被るらん 儿董
 霜りる菊のて葉の花なきし 一胤
 月夜只已不烟る 炭竈よ 女 吳天
 暎ふ中 渺 夜灯の鳴海鳥 友子
 北風胸をく川生涯幾く鴨子啼 梅三
 十里寒し 聖歌朽蓮を竊らむ 吾角
 残夢漸覚て君の玉笛 靈なる人 三曉

向田玉壺の文房不飲

丸雪せよ酔いゝがのる 寐 榑庵

わく墓不主の名立し 水仙も 社藤
 夕夢よ風化寒し 稲葉山 酉水
 寐なき 夢又し 雪那れかつ之 里曲
 きのやりを干蛙舟の跡の波 浦秋
 臥柴死霜ふとく 辰朝日哉 里山
 冬火焚く石川乙女 来りよ 橋水
 霜梨の霜不照る 虫の哀し 斯 魚發
 化心年忘れんと 思ふ 卦 立羽
 虚夢不虫を 被のまを火燧 卓五

月隱^レ高城^ニ五更の鐘^ニ氷色^ニ氷丸^ニ
よ^レ危^レの雪^ニ炭^ニや碎^レむ^ル聚^ルや^レ剗^ルらん
全
浪華^ニ林^ニ五晴

不盡 又ふ盡

凧^ニ攀^ル尽^ル名^ニ此^ニ栗^ニ猿^ニ
南^ニ州^ニ

冬^ニ乃^レ日^ニを^レ追^ル小^ニ人^ニ間^ニの^レ舞^ニ
心痛^ニ彼^ニと^レを^レの^レ月^ニ侘^ニ
物^ニ赤^ニ

叩^ハ叩^ク瓢^ノ音^子知^ラし
卓^五

水^ニが^レら^レし自然の色^ニを^レ秋^ニさ^レま^レや
立^ノ菊

充^ク袂^ニを^レ我^ニ不^レ更^ク富^ノ
魚^ニ發^ル

綺^ニえ^レん^レ左^ニリ^レ娘^ニ乃^レ火^ニを^レか^レら^レち
八^何

恨^ニと^レふ^ツ合^子歡^フの^レ下^ニ風^ニ
吳^侯

良^ニ忍^ルふ^レ雨^ニ水^ニ中^ニ夏^ニ明^クと^レ水^ニ燈^ニ
五

馬^ニ賣^ル已^レ容^{カクチ}何^ノ某^ノ
發

賊^ハの^レ字^ハ君^ニ不^レ覆^ルも^レれ^レ
魚^列

妻^ニを^レ幾^ク許^クら^レ松^ニ壺^ニ不^レ月^ニ
五

香^ニや^レ凋^ル蕊^ニ蘭^ニ期^ゴ不^レ後^レ
何

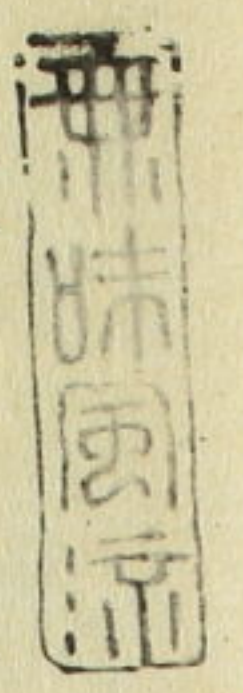
秋に九郎うなれ 烟アヂキナシの
 老オシふくく 礼 無アヂキナシ為
 奕カク小負コヘきり 駒コウ尾の顧ミ
 悔クハシの花 国の松立 夕間暮
 年トシなき 奴 春を夢ユメとし
 二月や 嫉イデ妬ヤ乃魚の目を守りて
 奇オチ魅 戀コイ衣イくクなきんンハ
 謂イハ説セ朝氣アサキの摩マ尼ニ此寄コ小
 柯カ打雪 乃柯カと音ネなり

五 赤 何 赤 列 赤 黄 何 發

長ナカ柄カラ川 名を追ツ鳥の惑ウひく
 わくしウくク行 英雄の月
 篠シノ小立コ猿ザル丸マ夫ウ 葱ネギ 糝シラ
 其ソノのコ是コトと買カて傾カ埵
 戲シレ 打ウ磑キ小水コの音ネ下何
 松マツ岐ノ しシ 白シラ々々し 霰シ
 色イロ立タく 産ウの常陸トコの身ミとトり
 祇シカミの守モれあハきり 此酒
 仰オホ なるナ 殿シノの亮スれきキ 舞マ

黄 斗 赤 艸 黄 艸 發 黄 何

危 曙の 雨を音おろす
 他心よみ陶スミの 摺木の 摺心地
 嘲りを賣 伯樂乃 花
 抄スカン 三十日此 軒イヒキ引
 何を 顯ゲ形ギヤウ 乃 陽亦向へれ 梨京
 發 黄 赤 菊



注昔祖翁栗集を跋と云ふ是晋子
 の書にして後の盗人を待たせ遺言
 而して十餘年未曾て得ずと不沙カ
 忽我禪先生が死に起つて狐白表
 よく其意を盗み得再と栗と一筆
 又世小鳴の舌味ハ不筭ハ心炙意鱈
 常なるや其語震動支門乙戸
 此界風を破り色玉浮立乃跡を

洗ハ既ハ北ハ海ハ北ハ水ハを一口ハ汲ハ盡ス
出シ真ハ寶ハを十ハ方ハ小ハ味ハ与ハ弁ハを是ハの為ニ
尔ハ龍ハ之ハ家ハと小ハ涌ハ快ハなる哉ハ、
爰ハ於テ予ハ水ハ學ハシテ師ハを難シて凶
栗ハ新ハ古ハなりハあハるを美味ハなりハ是ハ此ハ也
外ハ是ハを見ル小ハ供ハ凡ハ小ハ儼ハて新ハ字ハ也
以テ衆ハを引ク舊ハ毒ハを引ク一ハ喫ハもハ也
再ハ卷ハ中ハを閲ス寸ハ法ハ小ハ句ハ澹ハ多ハク

其ハ栗ハ小ハ習ハ少ハくハ果ハ意ハ舊ハ成ハ假ハし
物ハ小ハ似ハつハるハ又ハ世ハ間ハの泥ハ水ハを公吟ス
だハまハひハちハらハしハまハやハ 漸ハらハれハまハれハて
詞ハなハしハ依ハつハてハ又ハ世ハもハ是ハ高ハ致ハを公吟ス
衆ハ人ハ別ハ本ハの看ハ字ハなハるハんハを公憂ハへテ
是ハの為ハ小ハ新ハなハしハ栗ハと公題ハしハ句ハ格ハ
前ハ小ハ似ハしハてハ第ハ二ハ義ハを公甘ハしハ衆ハを公
自ハらハ小ハ取ハりハ見ハるハ人ハの爰ハよハ現ハ超ハ奪ハ

あむ事をも欲まらぬ 呵く予ハ水術中
小有ツく不知ラ 終小下ツて舞ス 猶
後盗とせられし ありしを 予し又前件
擬し摸して此小湯リ小記ス

安永丙子季秋月

垂菊洞ハ水鼓舞書

序ニ 嚙ニ 俳交行之趣吐テ而戯ニ

翻手成レ作 覆手愚ナリ
紛々俳書 何須^{モナシ}數ヲ
君不見蕉門七部集
桑盡糟粕 有^ニ虚粟

拾ひ得く世をよあし 之の 粟

屈麦水書

附言
ふりし栗の記

○新虚栗集就^{ナレ}リ不寸此^{小子}諸君子を欺^リ、
似^{トク}と多罪々々但^レ此書此風を^{トイ}説^ク
一遍の意を連^ルむとあ^ル只諸家の
吟を拾ひ盗^シく湯リ小新虚栗と題^テ句
成^ル並^ニ故^ク格調お違^ハル多^ク一^ニ元来^予志^シ
海内の俳士是^を嘲^ッて重^而玉を吐^キ珠^を唾^ツ
せん事^を希^シ也

○予先年、蕉門一夜口授^トりて版^小弁^ヲ虚栗

集をえざらん人を勧^メて此高致を託^ス今^マ諸
君より虚栗集此趣を知^リ高情を得^テ
逸^シ栗風をぢ^ク予^ハ口舌泥^ル小^ハ存^キ事^ヲ知^ル
たうれも本懐也^ニ初^メて此^ノ来^を見^ル人^ハ
願^ハくハ先年出^シては蕉門一夜口授^を合^シ
せし見^ぬらん事^を乞^フ
○書肆^五晴^日曰^ク世^上猶^虚栗^を見^甘せん人^ハ
甚^多一^愈詞^を添^へて衆^を進^むへ^子常^小云^ハ
栗調ハ夫^レ形^なく^て意^れと^ハ然^と意^も亦^無

意なき世事も欲せんと然らハ句ノ上へ理の聞
へきをたしとて母餘リ小生理を弁せ
とてハ人を引小詮なりし世をて一端と云
才外ノ栗末ノ西吟ノ発句

詩高一人年をも貪^{サカテ}酒債^{サカテ}也

是何事也ついで一巻の意趣をも解
予曰是蕉翁其角小俗諧を許すの一巻虚
栗集の眼目也翁則跋小龍泉大阿を以て
比し稱する所聞カも人ハ有へり元来晋子

懶惰^{ラシダ}小^ダ翁氣小不應^セ事ハ^{タテ}螢^{ホタル}の吟小
對して翁^ハ朝^ハ負^ハ小我ハ飯^ハ小男^ハ我と教示
あ^ハ趣^キ小も知^ラく^ハや晋子昼夜ニ坐小
遊^ル家をも不^レ理故ニ酒債尋常往所ニ有
詩ニ所思ありて題小取^ツく此詩高人の吟
あり趣意翁の心小叶^フ依^ツく翁我俳諧を
以^テ角ニ^ニ附^ス屬^ス詩高一人年をも貪^{サカテ}酒債^{サカテ}小
此意ハ今ノ世学者文人と罵リ先王ノ道我ニ有
と十面作^ル人愚小諛^ヒ痴小腰を折^ツて小

今年の三十^{ミツカ}も越ん来年の糧と求と文
華を賣ッ生を求る詩商人のこ也と云翁
常不佞門の宗匠とて傳授らき事を唱へ口
腹も舌も恥ツ角の腹内を去せ不感して終
小江戸の宗匠を其角不讓り世を道中不遁て
過国不去らんとも故不此脇あり

冬湖日々々 乘馬^{スル} 鯉 翁

是冬湖ハ湖海也江戸ハ凡遊^ユ我身と
日々^ニ行^ニ詮^ニ世况^ニ 多病の我芳

して功なりと日を知りてなり彼琴高世を
避人^{サレ}として鯉^ニ衆弟子不謝し
て去るとゆ我も^ニ爰の門弟子不
謝して去る^ニむる者ハ汝を^ニてや未鯉の
乗物とせん^{馬^ハ味^ハ試^ス}
才三

干鈍^{ホコニテ} 夷^キ不関をゆるらん 翁

凡格一^ハ廢^ハ才^ハ名高^ハかむ
事を欲も是又傲情乃常^ハ見^ス

いしよ地如斯くともさるる

○畫肆 五情 曰西吟ノ巻意深キるやさるるねたるる
他の巻の巻も又々如此、深意あるや、予曰其角
ふしてハ多ク、如此、上巻ノ中ノ附句ハ

婆靺 ハカン 又々々島おろし亦角

鳥葬 チヤウ 小くある明日の方そつ部全

是婆靺ハ南洋万里ノ遠キ則今、ジャガタラ、ハ

属 タク 鳥葬ハ火葬ノ惣名南洋異島ハる

自 レキ 死期ヲ知る枯枝を集ノ比上、居 オレ 已

羽を摺合ヒ火を焚シテ焼トスとつや洋海ノ
附句を一字ニテ近ク多部聖のありは比して
次の變化を快ク妙力を用ゆ わらわ
又下巻ノ中ハ

土船ニ訊棹ヲ月ハまのハ溜 と 楓興

浮生 セイ ハまぜと放す 盃 其角

土船ハスーく水上ニあり、人間の歡飲幕上乃
遮小日し故ニワキ又小魚の盃中ハ跳ルを比ス衆ニ示
一捧如此意浅いともさるる書種 五明

服して虚栗を解せん事と云予不才いんそわ
たむ不佞まゝ若くして北國小伝白を習ふ義懐ノ支
考を仰キ中比伊勢乃斐林小依ル終小麦水の号あり
其後美濃伊勢皆早凡の吟多くなると覺え蕉
翁の意は隔りて遠くして諸家の風を尋ねつ
とめて東西も岐路紛然とるとも只蕉翁の意
通する方と以て直道とて故七部集を味ふて
泝りて蕉翁初起ル天和貞享の頃武蔵曲鹿
栗集ノ類甚々蕉翁の白意を解する安しと云

たふハみりし旅情云

櫓色浪を打し腸氷ル夜や泪

貞享初年吟

あゝ海や佐渡小横く天の河

元禄二年吟

いつれも同調此高吟なると浪を打ての吟ハ腸
氷リ泪凝ルの躰を頭きて客情を安し佐渡
小横く小天の川と斗リやまらのくき此のハ思
意急よきと難し故よみり栗甚蕉翁の意
を求ル道なりとして尊ニ位を故ニ予強て句凡を
換るとハ思ひハ調替るハ似ハ又古人ハ自ラ也

調あり今人採きて調をもの難きを
委しかりされ也今や世の凡を變へ例名を改め
人多し予がまじし妻林下小交はるる名なき
よのそ只替ふ不性ふく人の呼ふ任まら故に是
又形を取らむ心も取らぬ趣意を依り今の新
る形果と題されむ人の呼ふ任まらふ心
予が性の押及ふ成へし依り記餘諸君見ゆ
寸矣

金澤 櫻庵 麥水齋

